

沖縄県青年海外協力隊を支援する会会報

はいむるぶし

(沖縄八重山地方の方言で南十字星の意 題字：故末次一郎氏)

第9号

〒901-2552 沖縄県浦添市前田1143-1
国際協力機構沖縄国際センター内
tel 098-876-6000 fax 098-876-6014
沖縄県青年海外協力隊を支援する会
発行責任者：事務局長 東江賢次

「育てる会」各県事務局長会議が開催 高いレベルの隊員確保のため 現職参加促進を

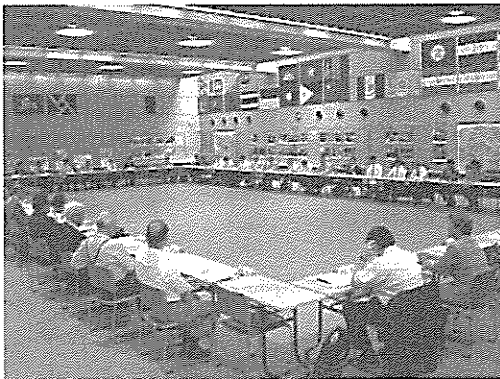
九月十六日から十七日にかけて広尾青年海外協力隊訓練所において、協力隊を育てる会各県事務局長会議が開催された。これは、毎年一回開催されているもの。

会議には各県の事務局長らが二九名、(社)育てる会の役員や外務省職員、青年海外協力隊事務局職員を含めて、総勢六六名が参加した。沖縄県支援する会からは、東江賢次事務局長が出席した。

会議では各県の活動状況や課題を報告した。協力隊への現職参加促進の具体的な事例として、鹿

児島県から、派遣条例未制定自治体に対して毎年、文書依頼していること、また、主な市町村には訪問してお願いしていることが紹介された。

また、石川県からは、これまで現職派遣促進に取り組んできた中で「エースは出せない」、「国際貢献、人材育成と



言っても具体的なメリットが見えない」と等という現実の否定的な声があることが紹介された。

「現職参加を促進しなければならぬ理由は、帰国後の進路指導が不要で、協力隊事務局が楽になるからか？」との某県事務局長の質問に対し、小宮(社)育てる会事務局長は「現職というものは高い技術、一定の社会経験を有し、彼らは現地でいい活動を展開している。ニーズに合わせるレベルの高い隊員を確保するためである。」と回答した。

初日の会議終了後に訓練所食堂において懇親会が開催され、乾杯のあいさつに立った沖縄県支援する会の東江事務局長は、来年一月に沖縄県で開催される第一四回開発教育全国集会に対しての参加を呼びかけた。

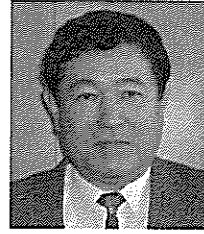
国際協力・交流フェス賑わう

十一月五日と六日の両日にわたって、浦添市内の沖縄国際センターにおいて、国際協力・交流フェスティバルが開催された。

県内の国際交流団体らによる五十ブースの出展があり、四、一〇五名の参加者で賑わった。これは昨年比で、ブースは倍、参加者は一・六倍の数である。



はいむるぶし



おいしいヒージャー料理を求めて アジアの国々の旅 前編

沖縄県中央食肉検査所
所長 平川宗隆

沖縄県青年海外協力隊を支援する会運営委員の平川宗隆は、
沖縄県中央食肉検査所長、鹿児島大学大学院博士課程学生、博
物館友の会副会長、etcと多くの肩書きを持つ。
山羊とトイレを中心テーマに、精力的にアジア各国を調査に
回っている。その調査旅行の一端を紹介してもらった。

はじめに

最近、といつてもここ2、3年のことであるが、うれしいことに
アジアの国々を訪問する機会に恵まれている。その一つは私のライ
フワークである「ヤギ」がご縁となっている。

(財) 沖縄県対米請求権事業協会という、舌を噛みそうな名称の
組織が毎年「地域振興助成事業」の名目で研究費を助成する事業が
ある。平成15年度のそれに「山羊で町おこし・村おこしのタイ
トル」計画書を提出したところ、運良く12組の応募の中から2組
が選ばれ、我がグループもその恩恵に浴することになり、5月から
調査を開始した。

で、100万円の研究費をもらい、何をしたかというところ、先ず、ア
ジアの山羊料理の食べ歩きだ。その目的は伝統ある沖縄のヒー
ジャー料理を中心にアジアの山羊料理を一堂に集め、世界の山羊料
理の屋台村を造り、地域興しの起爆剤にしようという壮大なもので
ある。

台湾

最初の調査地は台湾であった。フィリピンのバタン諸島に近い、

蘭嶼という島を選んだ。

沖縄への山羊の渡来については二つの説があり、その一つは西ア
ジアからイスラム教徒が、その教義の普及のために山羊をともなつ
てインド、マレーシア、インドネシア、フィリピンと渡り、台湾を
経由して沖縄に辿り着いた説。他の一つは中国から台湾、沖縄へ渡
来した説で、いずれにしても台湾が関わっている。

話を戻そう。蘭嶼にはヤミ族という先住民が住んでいる。ヤミ族
はフィリピン人に近い容貌をしている。かれらの伝説ではフィリ
ピンから来たということになっている。

この島には数千の野生の山羊が家畜の山羊と一緒に暮らしてい
る。家畜の山羊は朝、自宅を
出て夕方は戻ってくるよう
である。ヤミ族は殊の外山羊
を崇拜し、やたらそれを食べ
ることはしない。私は研究の
ためと彼らを説得し、山羊を
購入・解体することになつ
た。解体を請け負うのは、7
0歳を超すと思われる筋肉
質で日本語の上手な老人で
あった。解体した山羊は船の
出発時間が迫っていたため、
残念ながらそれを味わうこ
とはできなかった。

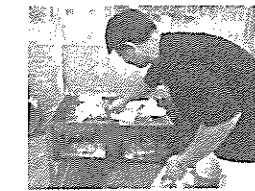


ヤミ族の解体の姿
ヤミ族の解体の姿
ヤミ族の解体の姿
ヤミ族の解体の姿
ヤミ族の解体の姿

次の調査地は台湾島東部の山中に住むブヌン族の村であった。こ
こは普段から山羊を食べていると思しきところであった。庭にはい
つでもバーベキューができるように煉瓦製の炉が設えてあった。山
羊のバーベキューをご馳走になったが、山羊肉は硬いので直火の料

はいむるぶし

理は向かない。小ぶりのタケノコと山羊の骨でダシをとったスープは沖縄のヒージャー汁よりあっさりしていたが、なかなかおつなものであった。ここでは一族郎党で熱烈歓迎を受けた。もう一度訪ねてみたいところである。先を急ごう。



ブヌン族の民族衣装を着けて解体してくれた。多謝

韓国

次に訪問したのは韓国であった。韓国は「存じの通り、犬を食べる国」であり、山羊はどうかと思っていたが、なかなかどうして山羊料理は洗練されていてAランクに格付けしたい。

韓国の山羊は真っ黒で肉用に改良されており、飼料も山羊の臭みをなくす工夫しており、料理も一旦蒸した山羊肉を使い、ニンニクやショウガやハーブを上手く取り入れている。

基本的には犬肉料理と一緒である。

韓国人にいわせると男は犬肉、女性は山羊肉が定番だという。

ベトナム

その次に訪問したのはベトナムであった。ベトナムはガチマヤーの私にとっては最高の場所である。退職後のシニアボランティアの



野菜の上に蒸したヤギ肉が載っている。コチジャンや好みのタレでいただく。

赴任先の候補地の一つでもある。

ベトナムの山羊料理は焼き肉と鍋料理に分けられる。両方ともハーブとともに野菜やライスペーパーでくるんでタレをつけて食べる。

ベトナムはただでさえ蒸し暑いのに、うら若き女性が化粧の落ちるものも気にせず、七輪を囲み汗をかきながら食べている。

ベトナム語で助平と山羊は同じ単語で同じ発音と教えてもらったが忘れてしまった。女性はベトナムへ行って、間違っても「私は山羊大好よ」とは言わない方がいい。

(次号へ続く。次号はフィリピン、インドネシア、インド、マレーシア、ブータンを掲載。)

スケベとヤギは同じ？

琉球大学のベトナム語講師 那須泉先生に聞いてみました。(編集部)

●同じです。Con de と表記して「コンゼー」と発音します。

かつてベトナムが琉球のように王国であったとき、国王は数百人という後宮の中で今晚はどの後宮のお部屋で一晚を過ごそうかと決めるとき、ひもにつないだ山羊を露払いにして女性の部屋を一巡することにしていました。

そして山羊が立ち止まった部屋で一晚を共にすることが習慣化しました。

女性側も国王の気をひきたいので、自分の部屋の前に山羊の好物の塩を盛っておくことで每晚国王を独占することができたといいます。ということでベトナムの習慣から山羊＝女性との一夜が連想され、それが「スケベ」に繋がっているのです。(那須 泉)



アジアでは鍋の最後は必ずしも同じ、ベトナムではフォーを入れて食べる。

はいむるぶし

お帰りのさい

帰国ボランティア紹介

上原由貴乃 ネパール 作業療法士
2003.7~2005.10 那覇市
出身 JOCV



文化・生活習慣の異なる
地で指導することの難しさ
を実感した。しかし、自分
が土地の人間になりきるほ
どに、彼らから多くのこと
を教わり、生活を楽しめ、充実した活動
をすることができた。

行ってらっしゃい

出発ボランティア紹介

小渡陽善 パラグアイ 環境保護教育
2005.11~2007.11 玉城
村在住 シニアV



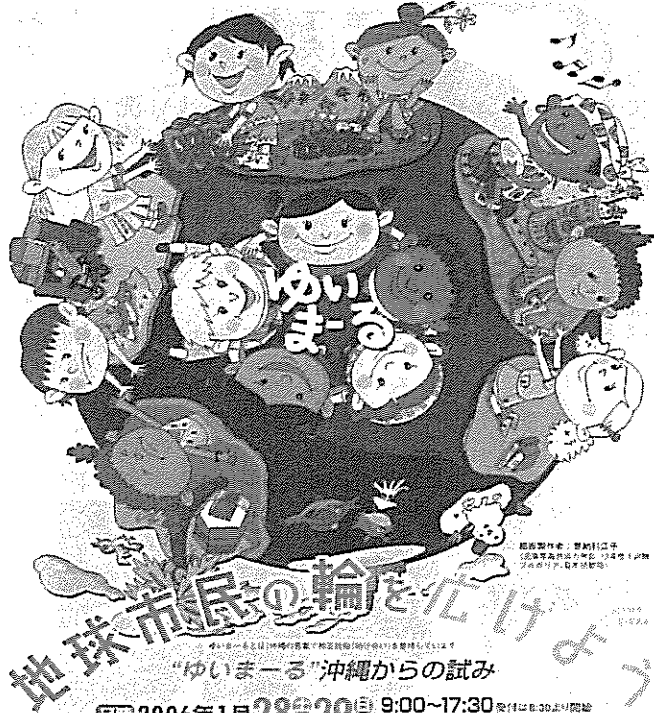
長年のごみ処理問題にか
かわった経験を活かし、パ
ラグアイに貢献したい。誠
実あるのみ。

本田由佳里 モロッコ 看護 2005.11
~2007.11 沖縄市在住
シニアV



前向きな姿勢で笑顔が大
切に、思いやりのある看護
を一緒に学んできたい。ま
た文化交流でたくさんの方
に会いたい。

第14回 開発教育全国集会沖縄大会



主催 沖縄県青年海外協力隊を支援する会
(社) 協力隊を育てる会

2006年1月28日(土) 9:00~17:30 会場は8:30より開始
JICA沖縄国際センター 〒831-0552 沖縄県那覇市那覇1-4-3-11

28日(土)

- ・基調講演：桜井国俊（沖縄大学長）
「軍隊を捨てた国コスタリカにみる平和教育」
- ・パネルセッション：「地球市民として生きるために」
パネリスト 早乙女光弘（NGO大使）、桜井国俊（沖縄大
学長）、仲間あずみ（沖縄県青年海外協会会長）

・分科会

- ①沖縄移民分科会 「移民県・沖縄から考える“ともに生きる”た
めに大切なこと」
- ②福祉分科会 「障害者問題と開発～途上国の福祉から学ぶこと～」
- ③教育分科会 「国際理解教育＝英語？」
- ④シニア国際協力 「まだまだガンジュー シニアライフ」
- ⑤フェアトレード分科会 「どうしてフェアトレード？」

29日(日) スタディーツアー ①沖縄文化コース ②沖縄平和コース

は、インドネシア語？

♪ マタハーリヌチンダラカヌ
シヤマヨ〜♪。皆さんが良く知っ
ている安里家ユンタの一節。八重
山芸能に詳しい者に尋ねても、
「唯（はやし）なので特に意味は
ない。」とのおもしろくもない回
答。

インドネシアから帰国したばか
りのシニアボランティア宮城清宏
先生（元琉球大学副学長）から、
それはインドネシア語であるとの
興味深い話を聞いた。インドネシ
ア語にはめると、マタハリ（太
陽）チンタ（愛する）カミ（私た
ち）スミア（全てを）で、「太陽
は、私たち全てを愛する」の意味
になる。

念のため、東南アジア言語に詳
しい琉球大学講師 那須泉先生に
も確認してみた。同じ解釈であつ
た。

一四〇六世紀、琉球王国の先人
たちがインドネシアの島々にまで
足を伸ばして活躍していたことの
証左である。

（南方系琉球人の東江賢次）

編集室から

「かりゆし」と決意していたのですが、
下旬にもなると、急に冬らしく。明日か
らネクタイを結ぶ時間早起きを。街はジ
ングルベル、机の上はまだ夏の書類。
秋ってあったかしら？（あがり）